

あしたへ 輝く



撮影地・山形県遊佐町

加藤 友一 (写真部部长)



公益社団法人
宮城県芸術協会
(郵便番号 980-0802)
仙台市青葉区二日町16-1
二日町東急ビル5-B
電話 (022) 261-7055
FAX (022) 214-5184
E-mail:miyagi-geikyo@sunny.ocn.ne.jp
発行者 雫石 隆子

昭和 40 年 1 月創刊された「はなやま」の題号は、芸術協会の創設が、昭和 39 年 5 月 9 日に宮城県花山村(現栗原市花山)の湖畔亭で開かれた会合で決まったことにちなんで付けられました。

謹んで新年のお慶びを申し上げます。新型コロナウイルスの感染拡大により、何もかも様式の変更を求められた昨年でしたが、依然として感染の収束に至らず、新年も慎重に諸事業を進めていかねばなりません。災厄の一方で、

引した工芸部、写真部の皆さまの成果であり、難しい環境下で成し遂げた意味は大きいと存じます。河北新報社のサポートも頼もしく、今後の展望も共助を抜きにあり得ず、感謝とともに連携を深化させていきたいと考えております。

昨年は収穫の多い一年でもありました。書道部の千葉蒼玄部長は米国ロサンゼルスのアートショーに参加し、出品作品は現地の美術館に収蔵され、演劇部の大日琳太郎部長もニューヨーク公演をコロナ禍の直前に敢行、好評を博しました。海外を視野に入れた活躍は、会員らに大いなる刺激を与えたでしょうし、協会としても喜びとするところでございます。

そして、何より、河北新報社との連携による二つの新規事業「杜のみやこ工芸展」と「フォトサミット in Sendai 2020」が成功を収めることができました。両公募展をけん

芸術文化で照らそう 希望の未来



宮城県芸術協会理事長
雫石 隆子

宮城県美術館の移転、集約問題も県が方針を撤回、絵画部諸先生の奮迅のご活躍もあり、要望に沿った決着を見ました。本年は、東日本大震災から10年の節目、苦難を乗り越え、復旧・復興から飛躍へと向かう起点となりましょう。「辛丑」の年は変化が付き物とか。当面、コロナとの付き合いは避けられず、平穏な日々は見通せませんが、着実な好転を信じて、会員皆さまと共に前へ！芸術文化の灯りを高々と掲げてまいります。未来を希望で照らし出すために、さあ、その先頭に――。

公募展、上々の滑り出し

前年の「河北」上回る応募者数

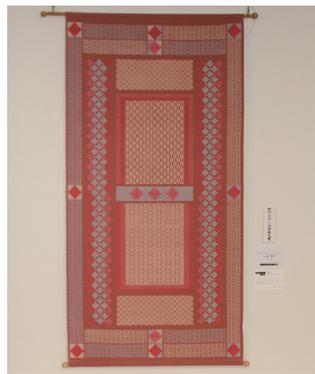
第1回「杜のみやこ工芸展」

当協会と河北新報社が連携、新たな形で企画した公募展、第1回「杜のみやこ工芸展」が、会員による第57回宮城県芸術祭工芸展に合わせ、11月5〜9日の日程で、仙台市のTFUギャラリーミニモリを会場に開かれた。応募者が昨年の「河北工芸展」を上回る上々の滑り出し。全国から秀逸な作品が集まり、東北を代表する工芸公募展へ、確かな基盤が築かれた。

杜のみやこ工芸展は、昨年で28回を数えた伝統の「河北工芸展」を母体とし、当協会と河北新報社が大同団結、共催する形で企画。河北工芸展を継承しつつ、芸術文化団体と地元メディアが、地域の工芸分野の振興を図るとの目標実現に向けて、総力を結集し実施した。

当協会は工芸部のさらなる発展、河北は芸術振興事業のより効果的な実施を模索する中で見出された方策。成果が早々に表れ、応募者は昨年の河北工芸展を上回る201人(230点)に達した。応募者を地域別にみると、宮

城県内が中心だったものの、県外50人で4人に1人に上った。「全国公募」の呼び掛けが奏功し、応募は東北5県に加え、東京、神奈川、愛知、遠くは広島、鹿児島まで全国に広がった。新型コロナウイルス感染症の拡大で、公募展の中止も相次いでおり、杜のみやこに目が向いた側面があるのかもしれない。第1回展の「値踏み」的な心理が働いたことも考えられる。



〔杜のみやこ工芸展〕

写真は最高賞、杜のみやこ工芸展大賞作品、タペストリー「明日へ」(こぎん刺し)。ピンク系の色調にグレーをうまく組み合わせさせた明るく華やかな作品で、幾何学的な文様構成がモダンだ。



多くの入場者が訪れた「杜のみやこ工芸展」。全国から集まった秀作は見応え十分。感染防止に努めたが、人の流れが滞って、密の回避にひやひやする場面も。(5面に受賞者名簿)



〔芸術祭工芸展〕

写真は最高賞、宮城県芸術祭賞受賞作品「染織」。作品名は「手緞八寸帯『夏河原』」。繊細な作品に仕上げた。作者の横田美和さんは、芸術祭表彰式で代表して賞を受けた。



【文芸祭(10月24日)・東京エレクトロンホール宮城】作品

作品数とともに、レベルの高さも期待以上。11月3日、ミニモリの会場内で行われた審査会は熱気に包まれ、秀作ぞろいで審査は難航した。審査員を務めた漆芸の沓澤則雄氏(日展会員、現代工芸美術家協会理事)は「中央展とそん色ない印象。ユニークで技量の確かな作品が多かった」と高く評価。外館和子氏(工芸評論家、多摩美術大学教授)も「全国レベル。作品の幅が広く、審査していて楽しかった」と応じ、今後の一層の飛躍を確信したようだった。

感染予防への配慮から、搬入審査、展示、搬出と日程に余裕を持たせての開催となった。会場が大学施設の一部のため、制約が多く、開場式を大幅に簡素化したほか、ギャラリートークを中止とし、表彰式も審査員による講評中心の内容に変更した。運営面で戸惑いはあったが、評価に堪え得る展覧会を実現できた。作品を鑑賞していた入場者は「感性が刺激され、豊かな時間を持てました。多くの困難を乗り越えた末の開催にとっても感謝しています」と笑顔で話し、満足した様子だった。



「芸術祭工芸展」では役員の一部18点、会員の部48点を展示。個性豊かな作品がそろった。企画展示の工芸展小品コーナーも開設、工芸への親しみと理解を深めてもらうよう工夫した。

精進結実、70名に荣誉

芸術祭表彰式
簡素に祝意こめる

第57回宮城県芸術祭表彰式が11月24日、トークネットホール仙台（仙台市民会館）小ホールで行われた。優秀な成績を収めた70名と、各部門で長年の功績が認められた10名が表彰された。新型コロナウイルス禍の下、会場も内容も例年とは異なる形式での実施となった。それでも開催すら危ぶまれた表彰式を無事にこなし、参加者全員で心から受賞者の荣誉を祝した。



祝福の思いに包まれた芸術祭表彰式

表彰式は、ほぼ例年と同時期に開催された。ただ、これまで、賞の授与を内容とする表彰式と荣誉をたたえる祝宴の二部構成で実施してきたが、コロナ感染が再拡大の傾向を強めて

おり、防止対策の徹底を図るため、密閉空間の会飲食で感染リスクを伴う祝宴を取りやめ、会場を当初のホテルからホールに変更せざるを得なかった。参加者も受賞者や功績者のほか、当協会関係者と共催、賞交付の団体代表者らに限定。出席者は約110名で例年の半分以下にとどまった。

第57回宮城県芸術祭会長で当協会の零石隆子理事長が、冒頭のあいさつで、ウイズコロナにおける芸術祭の開催について、改めてその意義を強調。次年度、全ての催事がさう「完全開催」を目指す決意を示すとともに、難しい状況下で制作・創作に励み、優秀な成績を収めた受賞者に敬意と祝意を述べた。

第57回宮城県芸術祭来場者数(人)

事業名	来場者数
開会式	39
写真展・フォトサミット in Sendai 2020	2,107
絵画展（公募の部）	1,467
彫刻展・彫刻公募展	1,467
絵画展（会員展）	5,373
華道展	1,532
書道展	3,100
文芸祭	45
工芸展	1,704
表彰式	118

併催事業

事業名	入場者数
第1回杜のみやこ工芸展	1,704

功績者表彰
功績者表彰を受けられた方々
【華道部】荒川一流・高橋一葉・清泉古流・佐藤一範（本原遠州流）
【洋楽部】尾形牧子、八島秀一
【茶道部】近江宗恵（表千家）、相沢宗裕（宗徧流）、関口南扇（織田流前茶道）、鈴木晋清（玉川遠州流）、島田幸子（武者小路千家）

3密の回避と時間の短縮を図るため、賞状、副賞（記念品）の授与も現実的でコンパクトな方式を採用。各賞の代表者一人がステージに上がり、賞を交付する団体の代表者らから賞状を受け取った。ほかの受賞者は客席にとどまり、受け取った。長年、協会の発展に尽くした功績者表彰も各賞授与に倣う形で実施した。併せて、令和2年文化の日表彰・教育文化功労の4名を紹介。一人一人に記念品を贈り、晴れの表彰を祝福した。表彰式は約1時間で終了。華やかな演出は避けつつも、各賞、表彰の紹介や代表者の授与では、ひととき大きな拍手を送り、ホール全体、温かいお祝いの思いに包まれた。

第57回宮城県芸術祭工芸展受賞者（会員の部）

賞	作品名	氏名
宮城県芸術祭賞	手紙八寸帯「夏河原」（染織）	横田美和（仙台市）
宮城県知事賞	泥彩波文鉢（陶芸）	馬場興彦（石巻市）
河北新報社賞	有線七宝合子「夜がきて、そして。」（七宝）	松本幸恵（仙台市）
宮城県教育委員会教育長賞	彩り（金工）	菅原恵美子（仙台市）
宮城県教育委員会教育長特別賞	硝子のこけしたち（ガラス）	尾形かなみ（石巻市）
（公財）宮城県文化振興財団賞	サボテン文蓋物（陶芸）	岸上まみ子（富谷市）
宮地房江賞	風紋（木竹芸）	中村小百合（仙台市）

次年度事業計画など協議、承認
第4回理事会開催

令和2年度第4回理事会が12月11日、会議室で開かれた。理事総数17名のうち、14名が出席し、3年度事業計画及び予算編成の方針など2議案を審議、承認した。零石隆子理事長のあいさつで開会。①河北新報社との連携事業の実績②第57回宮城県芸術祭進捗状況など5件を報告した後、議事に入った。

議案は①3年度事業計画及び予算編成の方針②正会員の入会承認についての2件。慎重審議の結果、ともに承認された。事業計画関連で第58回宮城県芸術祭については、新型コロナウイルス感染症の動向を注視しつつ、例年通りの開催を目指す方針を確認。「震災10年」の節目を踏まえた対応をめぐっては、事業実施の可能性を幅広く探ることを申し合わせた。

文芸年鑑発行

第57回宮城県芸術祭の一環、2020年版の宮城県文芸年鑑が発行（750部、1000円）された。詩の安住幸子さんを委員長に詩、短歌、俳句、川柳、散文・小説の5部門の編集委員14人で一連の作業を実施。文芸賞受賞作をそれぞれのトップで紹介し、会員らの作品も網羅した。書店でも取り扱っている。

昨年、河北新報社との連携で開催された一つの公募展が大きな成果を残して終了した。責任者として、「フォトサミット in Sendai 2020」「杜のみやこ工芸展」をけん引した佐々木光一参事と樋田隆工芸部長が12月14日、当初から両事業の計画、実施に深く関わった吉田利弘執行理事を司会役にして第1回展を振り返った。鼎談では実績とともに、連携公募展の継続、発展に向けて課題等にも言及。「正念場」の2回展を成功に導く決意を新たにされた。

◇ ◇ ◇
吉田 佐々木さんは実行委員長、樋田さんは企画委員長として、公募展万般、責任ある立場で関わって来られました。第1回展を終えられてのご感想を。

佐々木 芸術祭の一環の公募展としてイメージづくりが大変で、新型コロナウイルス禍の下での開催であり、一般だけの応募状況も心配でした。250名で成功、欲を言えば300名もと期待しましたが、何と350名。継承した河北写真展には例年、会員30〜40名が応募しており、実質的にはそれ以上。コロナの反動の側面もあるかもしれないが、合格点を与えたい。
吉田 幾つものハードルも乗り越えられ、満足のようですね。樋田さんはいかがですか。
樋田 当初、悩んだのは公募展

の名称の件。最終的には「杜のみやこ」を冠した工芸展にしたわけですが、審査員のコメントを読むにつけ、よかつたなああと応募が230点に達し、ほっとしたというのが偽らざる心境。コロナ下で中央展はじめ公募展が軒並み中止となり、多少、応募予定の作品が回ってきたようにも見えますが、母体の河北工芸展を上回るとは…。紙面掲載の広報効果が大きく、会員が30



公募展を振り返る
 左から吉田、樋田、佐々木の3氏

点ほど応募し、みんなで盛り上げを図った結果でもありません。うれしいことです。収支も気掛かりでしたが、決算見込みの報告を伺い、次につなげられるとの思いを強くしています。

吉田 応募状況が期待以上で、まずは「あっぱれ」でしたね。工芸部は公募展の企画、運営が初めてで、開催の会場も時期も変更されたわけですが…。
樋田 迷いを抱えつつの1年で

した。ただ、会員のやる気を感じ、心強かったですね。会場を視察し、不安が頭をよぎる局面もありましたが、事務局のち密な段取りにも支えられました。
吉田 写真部も勝手の違いに戸惑われることがあったのでは。
佐々木 審査員を東京から呼ぶ決断には勇気が要りました。事業の成功に必要と押し切ったわけですが、「吉」と出ましたね。賞の設定がすんなりいかず、要項作成にも知恵を絞り、東北の魅力伝える、気持ちよくすぐの広報物作りを心掛けました。手間は相当。応募点数が多く、

実績をさらなる発展の力に 吉田、佐々木、樋田3氏／2連携公募展を総括

きないことはなく、心躍る思いでした。未来につなげるため、今回落選した200名に来年も応募してもらわなければね。「日本一」を目標に掲げ、呼び掛けていけば応募はまだ伸びるはずですが、これからの取り組みが肝心。河北と一層連携を深め、賞の継続等も図っていききたい。
吉田 一昨年の部長会議で、連携公募展の実施の方向が示された折、樋田さんの思いは。
樋田 チャンスという気持ちもありましたが、本当にできるのかという不安が先に立って…。応募が少なかったら、赤

整理・管理から審査、展示まで手作業ばかりでしたから。

吉田 公募展の格や質を意識すれば、中央から審査員を呼びたいが、コロナ下でリスクが大きすぎないか。知事賞創設に各県の理解を得られるのか。緊張感に包まれる中での船出でしたね。河北新報社から連携を呼び掛けられた当時、佐々木さんは執行理事でしたが…。

佐々木 東日本大震災を機に「宮城発の公募展を」と、芸術祭公募展を始めて9年。飛躍を夢見て来ましたから、提案を受け「しめた」と。結束すればで

字になったらと弱気に傾くことも。理事長が支援を約束してくれて、やるしかない。河北展に育てられたようなもので、恩返しというか、なくなったら大変です。引き受けて大正解。表彰式を兼ねた作品懇話会も効果的でした。全国を意識しつつ、当面、東北の工芸振興を図る公募展として地歩を固めたい。

吉田 実績に安堵しつつ、事業の継続、発展に向けて課題や改善すべき点が見えてきました。
樋田 部内の企画委や河北を加えた実行委で、今回の総括的な検証と今後の方向をめぐり協議

を始めます。会場内の照明に課題があり、広報の在り方にも関心が集中。紙面に入選者の名簿が掲載されなかったのは残念ですが、芸協のHPに載せており、要項等にその旨、明示する目配りも必要でした。選外者への対応にも配慮が欠かせず、次につなげる意識と情報の共有化を図らねばと感じています。
吉田 写真部も1月に運営委員会を開かれるようですが…。
佐々木 私なりに課題を整理すれば、公募展と会員展の会場の割り振りや入賞作品等の表示が分かりにくく、カメラ雑誌への発表も出遅れました。初出品の方が多く、マスコミの力を見せつけられた思い。事業の充実へ、連携強化が不可避です。会員展の充実を図る必要もあります。その質の高さが求心力を強め、公募展参加の呼び水になるからです。目標は大きく、写真家の登竜門的な公募展に育てたい。

樋田 大賞の作品を組み込むなどの機会も東北全域に広げたい。芸術家集団と新聞社連携の独特の形態を強調、アピール力強化の方法も考えていければいい。
吉田 事業の「成功」が他部門の活動の幅を広げる契機となり、協会発展の礎にもなります。河北との絆を深め、公募展の定着を図っていきましょう。

宮城県美術館の移転、県民会館等との集約構想で、県は11月16日、県美の移転方針を撤回した。当協会は「施設の維持、利活用」を軸とする要望書を提出しており、県の方針決定はほぼ要望に沿った内容。ただ、現施設が抱える課題は少なくなく、増築なしのリニューアルでの機能充実に向けて、さらなる働き掛けが必要となる。

約1年、関心と呼んだ県美の移転構想は、移転、集約のA案と現施設の増築を伴う改修のB案、土壇場で浮上した増築なしのC案を比較した結果、反対世論にこたえつつ、費用を抑えられ

地域文化功労者表彰に2氏彫刻、華道分野で多大の貢献

文化庁の地域文化功労者表彰で、当協会の理事、彫刻部の佐藤淳一氏と、華道部（道風流）の有賀華醇氏が令和2年度の被表彰者に選ばれた。長年、芸術等の地域文化の振興・発展に寄与した個人及び団体を文部科学大臣が表彰する名誉ある顕彰。

佐藤氏は仙台市出身で、東京芸術大学大学院修了。現在、東北生活文化大学美術学部長（美術表現学部長）。河北美術展顧問、日本美術家連盟会員、環境芸術学会会員。理事として当協会の活動をけん引し、県内外の

るC案で決着した。建築文化財的価値や景観的価値の高さを背景に、県内はもとより、県外・海外にまで反対の波紋が広がる中、大半が受け入れ可能で納まるところに収まった形だ。

**美術館、現施設を改修へ
移転構想撤回
当協会の要望通り**

①県民の理解を得る丁寧な手続き②多面的な価値を有する美術館の維持、利活用③施設運営等での芸術団体、県民参加体制の整備、充実強化の3点を要望した当協会にとっても一定の評価はできる。



佐藤淳一氏



有賀華醇氏

彫刻界発展に貢献。大学で後進の指導にも尽力。県教育文化功労者表彰も受けている。

手掛ける彫刻の素材は主に石。審査員を務める傍ら、第57回県芸術祭にも作品2点を出品した。

佐藤氏は「大いなる励みとし、今後はより協会や地域に軸足を置いて多少なりとも地域文化振興のお役に立てればと思います」と、静かに喜びを語った。有賀氏は福島県出身で、長年

ただ、増築を伴わない改修案で、機能の不備、不足をいかに補うか、課題は残る。移転する新県民会館に設けられる予定のギャラリ―機能充実も念頭に置きつつ、今後も積極的な要請活動を行い、芸術文化施策の充実強化を働き掛けねばならない。

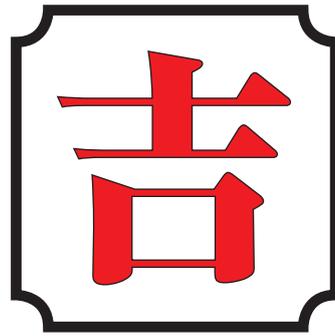
当協会は手始めとして12月11日、協会事務所にて県の担当者呼び、決着の経緯のほか改修計画の策定に向けた進め方等についての説明会を開いた。今後、協会として、示されるその内容を深く検討し、県に対して協議、要請する機会を創出していく考えだ。

陸上自衛隊に勤務。この間、道風流に入会。社団法人宮城県芸術協会評議員を歴任した。コロナ下の第57回芸術祭華道展にも協力、協会の活動を支援。県華道連盟理事を42年余にわたり務め、後進の指導・育成にも尽くし、本県華道界の発展、地域の文化芸術の振興に寄与している。ボランティアとして地域の文化活動にも積極参加。「宮城県文化の日表彰」の受賞歴も。有賀氏は「体の続く限り、華道を通じた地域文化の発展に努めていこうと考えています」と、喜びを語りつつ、活動の継続を誓った。

第 1 回杜のみやこ工芸展 受賞者

賞名	作品名	氏名
杜のみやこ工芸展大賞	こぎん刺し タバストリー「明日へ」 (染織)	小林寛子 (仙台市)
河北新報社賞	かまきり (漆)	田中泰雄 (仙台市)
公益財団法人宮城県文化振興財団賞	青葉の舞い (木竹)	倉橋正伸 (秋田・大崎市)
J A L 賞	をる陶 (陶磁)	今田拓志 (広島・広島町)
宮城県知事賞	森の響 (染織)	安倍由夏 (白石市)
青森県知事賞	太古の響 (陶磁)	木村八百子 (角田市)
岩手県知事賞	彷徨のさきに (陶磁)	西澤伊智朗 (長野・長野市)
秋田県知事賞	乾漆合子白兎黒兎 (漆)	杉山智一 (大和町)
山形県知事賞	藍浅葱 緋透綾 (染織)	白根澤義孝 (山形・米沢市)
福島県知事賞	B r e a t h 1 9 - 1 3 (陶磁)	本田恵美 (岩手・遠野市)
仙台市長賞	秋田八丈 秋の詩 (染織)	三浦真理子 (秋田・三種町)
宮城県教育委員会教育長賞	道 (染織)	芳賀アイ子 (仙台市)
仙台市教育委員会賞	静岳 (陶磁)	大沼明子 (仙台市)
公益財団法人仙台市市民文化事業団賞	千線の箱 (金工)	石井克巳 (仙台市)
東北福祉大学賞	1 6 - 1 8 (陶磁)	平野嵩真 (仙台市)
NHK仙台放送局長賞	鉄瓶 Square (金工)	澤野諒和 (岩手・盛岡市)
東北放送賞	森の記憶 (金工)	佐々木勇 (秋田・秋田市)
東北電力賞	紫陽花文組皿 (陶磁)	岸上まみ子 (富谷市)
新人賞	海底に降る雪 (人形)	福田一実 (仙台市)

丑年が明け、年男・年女を迎えた運営委員(彫刻部、舞踊部は副部長)から年賀状が届いた。決意、願い、感慨……。各部をけん引する16人が記したメッセージは多様で力強い。丑年生まれは、努力家で負けず嫌い、堅実、誠実が



「年賀状」

コロナ禍の一年、絵を描くことも楽しみを見つけていることは大切で癒された一年でもありました。仲間4人で「ばあー」の日本画展を開催、「素晴らしい」のお褒めの言葉をいただきました。歳を重ねて描いていきます。

継続は殊の外大切
絵画部(日本画) 富樫 清子

東日本大震災から10年、さまざまな価値観や物の見方が一変してきました。現在は新型コロナウィルスの蔓延により、私たちの表現活動を模索していき、そんな一年に動も大きな制約を強いられています。

新しい表現を模索
絵画部(洋画) 坂本 和之

明けましておめでとうございます。東日本大震災から10年、コロナ禍で世の中の歯車が今までは少し開催された「杜のみやこ工芸展」は、部長をはじめ部の方々の協力もあり、新たな道を歩み始めました。

作品制作に全集中
工芸部(陶芸) 相澤 正樹

あけましておめでとうございます。今年も新型コロナウイルス感染症拡大の動向を気にかけながら、いけば花

牛歩でも前向きに
華道部(池坊) 加藤 静香

催事、支部運営を組成していくこととなります。牛歩牛歩でいいと思います。

明けましておめでとうございます。何とかが副部長の役を終え、少しホッとしております。振り返ってみれば、制作とは異なる組織の大切さや皆さんのご協力を実感できます。

組織の大切さ学ぶ
絵画部(洋画) 森 眞澄

明けましておめでとうございます。最近の趣味はレザークラフト。財布等の小物を手始めにトートバッグ、鞆、リュック等、普段持ち歩くものは自作の革物です。

平穏な一年を期待
絵画部(洋画) 峰岡 順

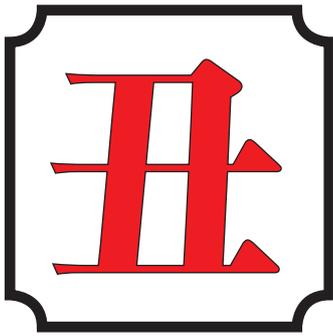
新春のお慶びを申し上げます。昨年はお慶びを申し上げます。昨年はお慶びを申し上げます。

知恵と熱意掌中に
書道部 佐々木鳳堂

新年おめでとうございます。昨年は新型コロナウイルス感染症拡大に振り回された一年でした。

願いは平常の催事
華道部(古流松應会) 渡邊 理和

も例年の半分以下の作品展示となりましたが、足を運ばれた方々に感謝しております。



特徴とされ社会
世相的には、発
展の前触れ、活
躍・飛躍の予兆
でもって語られ
る。東日本大震
災から10年。コ
ロナ禍を乗り越
えて、希望を伴
い飛躍する始ま
りの年としたい。
「辛丑」。心新た
に心一つに「吉兆」
の芽を育みたい。

年男・年女からの

琴、三味線を趣味とし楽しく その姉との初舞台に臨みました。
生きた母に導かれるように、自 音合わせに苦労したようですが、
然に同じ芸 道に親し
み、孫に引
き継ぎまし
た。曾祖母から受け継いだ撥を する重みとうれしさを感じたひ
宝物と喜ぶ孫娘は琴をたしなむ と時でもありました。

引き継がれる旋律
邦楽部 (長唄) 杵屋和加富法
代々、伝承

あけましておめでとうござい を変え徐々に再開される中、音
ます。昨年は新型コロナウイルスの感染 楽が必要とされていることを感
拡大でコン
クール本選
以降の催事
が中止にな
るなど、さまざま音楽活動が すが、今年は工夫を凝らし活動
できない事態となりました。形 していきたいと思えます。

制約乗り越え活動
洋楽部 小澤 牧子
約が続きま

コロナ禍で世界中の人々が大変 台でも11月と12月に茶会を実施。
な目に遭う中、昨年10月末、京 皆さまに喜ばれ、私たちも感動
都で全国大
会を開催
し、有意義
な2日間を
過ごしました。どんな困難な状 すが喜ぶ姿を思い浮かべ、活動
況にあっても前向きに考え、仙 を重ねてまいります。

前向き思考で実践
茶道部 (玉川遠州流) 渡邊 晋祥
た。これか
らもお客さ

不安だらけの大変な世の中で、 今後の糧になりましょう。刺激
心が折れかかる時に催された芸 的な作品に触れて創作意欲を高
術祭。感動
し会場にい
るだけで幸
せでした。
公募展も定着し若者が頑張っ いっぱい。若い力と共に成長して
ています。不自由な折の活動は いきたいと願っています。

若い力と共に成長
彫刻部 阿部 弘子
びと感謝
の気持ちで

謹んで新春のお慶びを申し上げ 大震災から10年の節目の年でも
げます。本年も安心して音楽を あります。改めて命の尊さを胸
楽しんで
いただいた
り、コン
クールにご
参加いただけよう、協議や準 備を重ねてまいります。東日本 ことを願っております。

前に進む活力提供
洋楽部 市川 恵美
共に前進す

明けましておめでとうござい す。「辛丑」は辛いことが多いだ
ます。芸協の公益社団法人化を け希望が芽生える年だとか。丑
機に始めた
文芸祭の一
般公募も軌
道に乗る一
方で、応募者の固定化や減少と を避けずに、着実に歩みを進め
いった大きな宿題を抱えていま ていけたらと思います。

課題を避けず前進
文芸部 (俳句) 篠沢 亜月
好きなので
すが、課題

おめでとうござい。第二の 日々、近づくことと頑張っています。
人生は、写真を本格的に学ぼう 芸術祭の作品は構想から完成ま
と決めてい
ました。縁
があり芸協
写真部に入
ることができ、圧倒的な作品を 生第二楽章は結構、充実し幸せ
制作される諸先輩に刺激を受け、 かもしれません。

充実の日々を実感
写真部 庄司多賀雄
業です。人

震災翌年の気仙沼復興舞踊会 進めてくれることを実感しまし
を思い出します。家族や家を失っ た。困難な今だからこそ、お互
た子どもた
ちが元気
に踊り、そ
の力強い姿
にどれほど勇気をもたらしたこと ね。牛タンをいっぱい食べて闘牛
か。文化芸術は気持ちの前に で突き進みます。

芸術の力を今こそ
舞踊部 花柳寿美衡
合い芸術の
力で乗り越
えたいです

高野氏に河北文化賞

第70回(令和2年度)河北文化賞に高野ムツオ氏(文芸部・俳句)の受賞が決まり、2個人、2団体とともに、1月16日に仙台市青葉区の仙台国際ホテルで行われた贈呈式で本賞の賞牌などが贈られた。

高野氏は栗原市(旧宮城県岩ケ崎町)出身。元中学校校長で子どもの頃から俳句に親しみ、現在、俳誌「小熊座」を主宰するほか、県俳句協会長、現代俳句協会副会長、日本現代詩歌文学館長。俳句界で最も権威があるとされる蛇笏賞などを受賞し、日本を代表する俳人の一人。協会では文芸部運営委員を務め、河北俳壇の選者や句会の指導、さらには講演、執筆と多忙な毎日を通す。

高野氏は「仲間や妻に感謝をしつつ、今後も東北、みちのくの風土に根差した句を詠んでいきます」と喜びを語った。

第68回(平成30年度)河北文化賞の2氏に続く受賞。

芸術祭受賞者作品展 年の瀬、秀作を堪能

第57回宮城県芸術祭絵画展受賞者作品展が12月15〜21日、東京エレクトロンホール宮城の展示室で開かれた。会員の部、公募の部の受賞者が受賞作と新作等を1点ずつ出品する歳末恒例

の秀作展。会員22人、公募7人の計58作品が展示された。

芸術祭絵画展で高い評価を受けた作品を、新作とともに鑑賞できる貴重な機会。新作は比較的小ぶりなものが多く、作風の比較も興味深く、芸術祭とは趣の異なる魅力を醸し出していた。

慌ただしさを増す定禅寺通と一線を画す落ち着いた美の空間。入場者はしばし、新型コロナウイルスの感染に明け暮れた一年のけん騒を忘れて、心を満たす優雅なひと時を過ごした。

新入会員

【洋楽部】黒澤有紀〓仙台市青葉区、猪又麻衣子〓仙台市宮城野区

寄付金

◇寄付金(12月末まで受領分・敬称略)▽雫石隆子▽坂内カネ▽金澤孝一▽事務局一同

事務局日誌

会務報告

【第2回部長会議】12月7日
・第57回宮城県芸術祭について(宮城県芸術祭実行委員会)
・今年の協会以外の動向も含めた活動状況について
【第4回理事会】12月11日
・令和3年度事業計画及び予算編成の方針について

・正会員の入会承認について
後援

☆ばあじの日本画展
12月8〜12日

秋保・里センター

☆ピアノとエレクトーンによるピアノコンチェルト「饗宴」
Vol.1

1月10日

常盤木学園

☆東北書道新春選抜展
1月22〜26日

☆第9回翔雲書展
1月30日〜2月2日

☆第16回全国 Dance Competition in Sendai 2021
2月13〜14日

多賀城市文化センター

☆第16回 ALL NIPPON D.A.T.E クラシックバレエコンペティション MIYAGI
4月1〜3日

仙台市太白区文化センター

☆第83回河北美術展
4月27日〜5月4日

藤崎本館・TFUGギャラリーミニモリ

☆みやぎを魅せる書展
4月30日〜5月5日

せんだいメディアテーク

会員の入賞・入選など

◇第67回河北書道展(第一部漢字)▽河北会友賞〓渡

辺楊麗▽JAL賞〓石田蒼龍(第二部かな)▽委嘱作家特別賞〓渡辺伸風

〓第三部墨象)▽河北会友賞〓浅野彩紅(第四部近代詩文)▽河北会友賞〓遠藤志翠▽会友秀逸賞〓建部紘子

〓第五部少字)▽会友秀逸賞〓金沢泉明

〓第六部篆刻・刻字)▽河北賞〓山家四琴

〓第七部一行書)▽河北賞〓畠中成山▽仙台市長賞〓永澤翠雪

◇改組新第7回日展(第2科(洋画))▽入選〓佐藤幸子、村田洋子、我妻宏也

(第5科(書))▽入選〓小日向慶可、末永瑞鳳、高野芳月

◇第54回女流陶芸公募展▽入選〓新藤睦子

受贈書()は寄贈者

『群山第75巻記念合同歌集 樺並木』(群山)、『歌集 四月の翼』(阿部律)、『原秀一画集』(原秀一)、『宮城の現代詩2020』(宮城県詩人会事務局)

謹 弔

文芸部(散文・小説) 茂堂 久 殿

文芸部(短歌) 小野昌一郎 殿

邦楽部(三曲) 岩崎郷山 殿

11月14日

1月3日

10月24日

11月14日

1月3日

けやきの譜

東日本大震災から10年。あの日の雪と月が、忘れたい記憶として残っている。時の流れは記憶を曖昧にしていく。心の傷を徐々に癒していく。だが、あの大災害からいまだ十分に回復したわけではない。癒されないことも、元に戻らないことも山のように置き去りにされたままだ▼そこに未知の新型コロナウイルス感染の脅威が襲う。世界が同時にたつた一つのウイルスによって、震え上がっている。しかし、人類はこれまで幾度もパンデミックを乗り越え、平穏な日常を取り戻してきた。冷静でありたい▼コロナ禍を契機に思慮を深めるべきことは、負の側面に目を閉ざし、少々単純に地球規模で相互に依存するグローバル化や経済成長を善としてきたことなど、これまで自明と考えてきた前提ではないか▼芸術の発表や鑑賞も、一時的にネットの新しいステージに活路を見出すかもしれない。が、顔と顔を合わせることにによるコミュニケーションの、人を中心から励ます力には及ばない。芸術も同じだ。やがて元に戻る。(英)